

## 女性管理職が語る

# 海外の人と分かり合うには

私は日々、様々な国籍や文化背景の人と仕事をしています。過去に海外のメンバーから「もっとシンプルに、オープンに話してもらいたい」と言われたことがあり、私自身は極力そうしているつもりだったので戸惑ったことがありました。

その本では、コミュニケーションのスタイルを「ローコンテキスト」であるか「ハイコンテキスト」であるかを一つの指標としています。

その時は説明の段取りや英語力の問題だと思っていたのですが、実は異文化理解力の問題だったことに最近読んだ本で気づきました。それはまさに「異文化理解力」(英治出版)という書名の本で、異なる文化背景を持つ人同士がビジネスで

ローコンテキストのコミュニケーションは、共通の文化的背景コンテキストを互いに共有して

いけないことが大前提で、

日本HPコーポレーション 事業本部 部長  
コンシューマー事業本部 部長

## 沼田 綾子氏



ぬまた・あやこ 2001年、コンパックコンピュータ(現日本HP)入社。Eコマースやマーケティングの部署を経て16年にコンシューマーPC製品部へ異動。17年5月から現職。

その中で比較するとシンガポールやインドがローコンテキストで、続いて

中国、韓国、インドネシア。日本は世界で最もハイコンテキストなコミュニケーションをする国と

測れません。一方、ハイコンテキストな人からするとローコンテキストなコミュニケーションは、わか

りきつたことを何度も強調して紹介されています。調し、なんだか子供扱いされているような気持ちになるかもしれません。

最もローコンテキストな国・地域は米国、オーストラリア、カナダで、

欧州、南米と続きます。アジア圏はハイコンテキストな国が多いですが、

解しようとし、ハイコンテキスト側の場合は相手に合わせ極力クリアで明確な説明を心がけるとい

るから見てハイコンテキストな人の話は曖昧では

ローコンテキスト側ならハイコンテキスト側の繊

細で言外にある意味を理解しようとし、ハイコン

テキスト側の場合には相手に合わせ極力クリアで明確な説明を心がけるとい

厳密で明快で曖昧さがないことが特徴です。ハイコンテキストのコミュニケーションの場合もあります。

ケイションは繊細で含み

があり、実際に話す言葉

の裏に違う意味が存在す

のめかしが多く、真意が

ストナ国が多いですが、

解しようとし、ハイコン

ユニケーションが基本的に合っていると感じます。世界で最もハイコンテキストな文化背景を持つ私たちが海外の人たちと仕事をする際は、常にシンプルで明瞭で率直なコミュニケーションを心がけるということが肝要なのだと思います。細かいニュアンスや微妙な機微などは一旦そぎ落としてストレートに伝える。資料などではグラフや構造図などのビジュアルを使うことも有効です。

真意をどう伝え合い、分かり合えるか、自分の経験を振り返って再発見した読書体験でした。